



生物多様性と『生きものつながる世田谷プラン』

地球上には個性を持った多くの生きものが暮らしていて、これらが直接または間接的に関わりあって生きていることを「生物多様性」といいます。

生物多様性は、食料や水、気候の安定などの恵みをもたらし、私たちの暮らしを支えています。

ところが近年、資源の過度な消費や、外来種の侵入による生態系への影響などにより、生きものの絶滅・減少が急激に進み、生物多様性は危機にさらされています。

世田谷区では、生物多様性の恵みが将来にわたって受け続けられ、活力のある活動が生み出される世田谷であり続けることを目指して2017年（平成29年）3月に「生きものつながる世田谷プラン」を策定しました。このガイドブックは、建築の際にこのプランを身近な場所から実現する参考に活用していただくために作成しました。

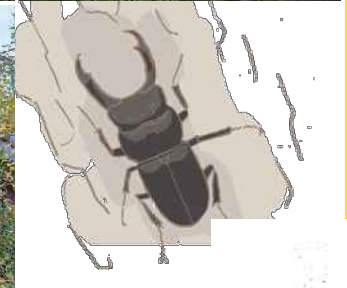


世田谷 生きもの緑化 ガイドブック

生物多様性に配慮した緑化を進めるために



このガイドブックでは、生物多様性に配慮した緑化を、多くの方に親しんでいただくために『生きもの緑化』と呼んでいます。



2018年(平成30年)4月 世田谷区

目次

1.生きもの緑化へのお誘い	1
2.世田谷の生きものネットワークの将来イメージ	3
3.生きもの緑化の実践	6
3-1.敷地の大きさや用途で考える	6
3-2.緑化の種類で考える	11
3-3.植える植物を考える	17
4.生きもの緑化の楽しみ方	19
巻末資料(世田谷在来植物リスト)	21

このガイドブックに掲載した写真は、区内の事例です。

1.生きもの緑化へのお誘い

みどりの機能と生きもの緑化

世田谷は武蔵野台地の南西部に位置し、多摩川や国分寺崖線、社寺林、公園や緑地、そして住宅地のみどりなど、さまざまなみどりが広がっています。

世田谷区では2017年に「生きものつながる世田谷プラン」を策定し、区民の皆さんと一緒に生物多様性を意識したライフスタイルの実践と、その環境を将来に引き継いでいく取り組みを進めています。『生きもの緑化』は、生きものすむ環境の保全・創出を通じて、生きものとともにある私たちの生活をより豊かにし、みどりの恵みを実感することのできる世田谷の実現を目指すものです。身近な場所から『生きもの緑化』を進めてみませんか。

※このガイドブックで「みどり」とは、樹木、樹林地、草地、水辺地、動物生息地その他これらに類するもの及び地下水又は湧水とが一体となって構成された環境を言います。



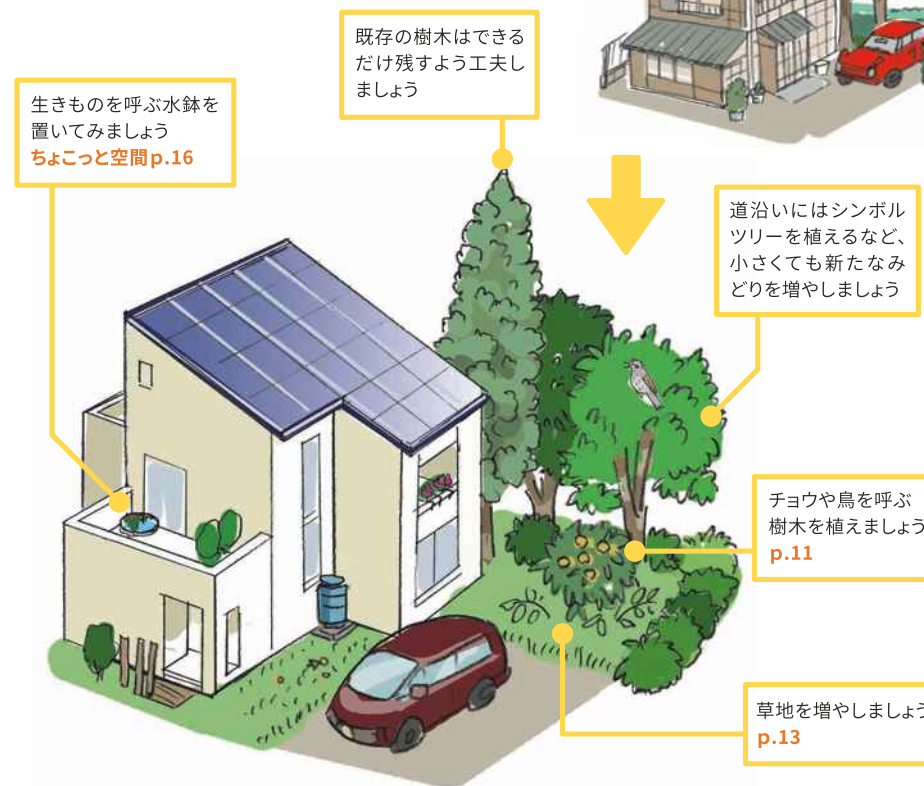
次世代にも残したい生きものとのふれあい

小さなみどりであっても、自分が育てたみどりに小鳥やチョウがやってくる。それだけで楽しいものです。23区の中で比較のみどりの多い世田谷ですが、生きものと触れ合う機会は少なくなっています。ご近所の庭や公園、緑地などさまざまな場所とのつながりを意識して生きものがすむみどりをつくり、生きものとともにある日々の楽しみを次世代にも残していかなければなりません。



生きものにもやさしい建築

世田谷では、毎年約3～4千軒の建物が建築されています。地域の皆さんに親しまれてきたみどりを残したり、新たにつくるみどりを生きもの視点から考えることで、住む人だけでなく生きものにもやさしい建築を工夫してみましょう。



2. 世田谷の生きもののネットワークの将来イメージ

みどりがつながる街並みは、私たちにとって魅力的なだけでなく、多くの生きものがそのなかを移動しながら暮らすことができます。世田谷では生きものがすむ場所を点や線でつなげ、生きもののすみやすい環境づくりを進めます。

区内はみどりの状況から大きく3つの地域に分けることができます



みどりの連続性が高い地域

タヌキ・カワセミ・ハグロトンボ

ウグイス・カルガモ・コゲラ・ジョウビタキ・ツグミ・カブトムシ・コクワガタ・カタテハ・ヒメジャノメ

オナガ・カワラヒワ・シジュウカラ・ハクセキレイ・ヒヨドリ・メジロ・アズマヒキガエル・ヒガシニホントカゲ・ニホンカナヘビ・アジアイトトンボ・ギンヤンマ・ショウジョウトンボ

住宅地の中に中・小規模緑地が点在する地域

エンマコオロギ・ショウリョウバッタ・トノサマバッタ・ミンミンゼミ・アゲハ・カタキチョウ・クロアゲハ・コムシジ・ジャコウアゲハ・ベニシジミ・ヤマトシジミ

市街化が進み比較的にみどりが少ない地域

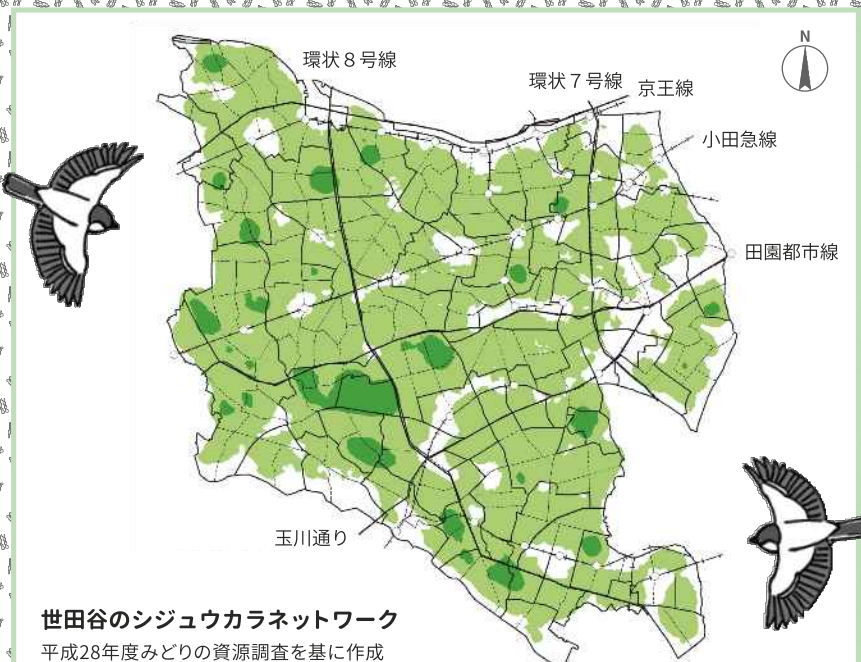
呼ぶことが期待できる生きものの例

Column シジウカラに注目してみる

林にすみ樹木を伝いながら移動するシジウカラに注目してみると、樹木のつながりが大切なことがわかります。さまざまな高さや種類の樹木を増やして、シジウカラを呼んでみませんか。

シジウカラってどんな鳥？

- 一年を通じて姿を見ることができます。
- 「ツツピー、ツツピー」とかわいい声で鳴きます。
- シジウカラは雑食性で、虫や木の実などいろいろなものを食べるので、林の生物多様性の豊かさの指標の一つになります。



世田谷のシジウカラネットワーク

平成28年度みどりの資源調査を基に作成

- 拠点（樹木地率32%以上）：シジウカラが安定してすみ場所
- サブ拠点（樹木地率11.5%以上）：シジウカラが高い確率ですむ場所

参考：橋本啓史・夏原由博(2002)ロジスティック回帰をもちいた都市におけるシジウカラの生息環境適合度モデル，ランドスケープ研究，65(5)：539-542.

今ある樹木を保全し、新しく植えるものは種類に配慮して、区内全域でシジウカラが安定してすみ環境を目指しましょう。

3.生きもの緑化の実践

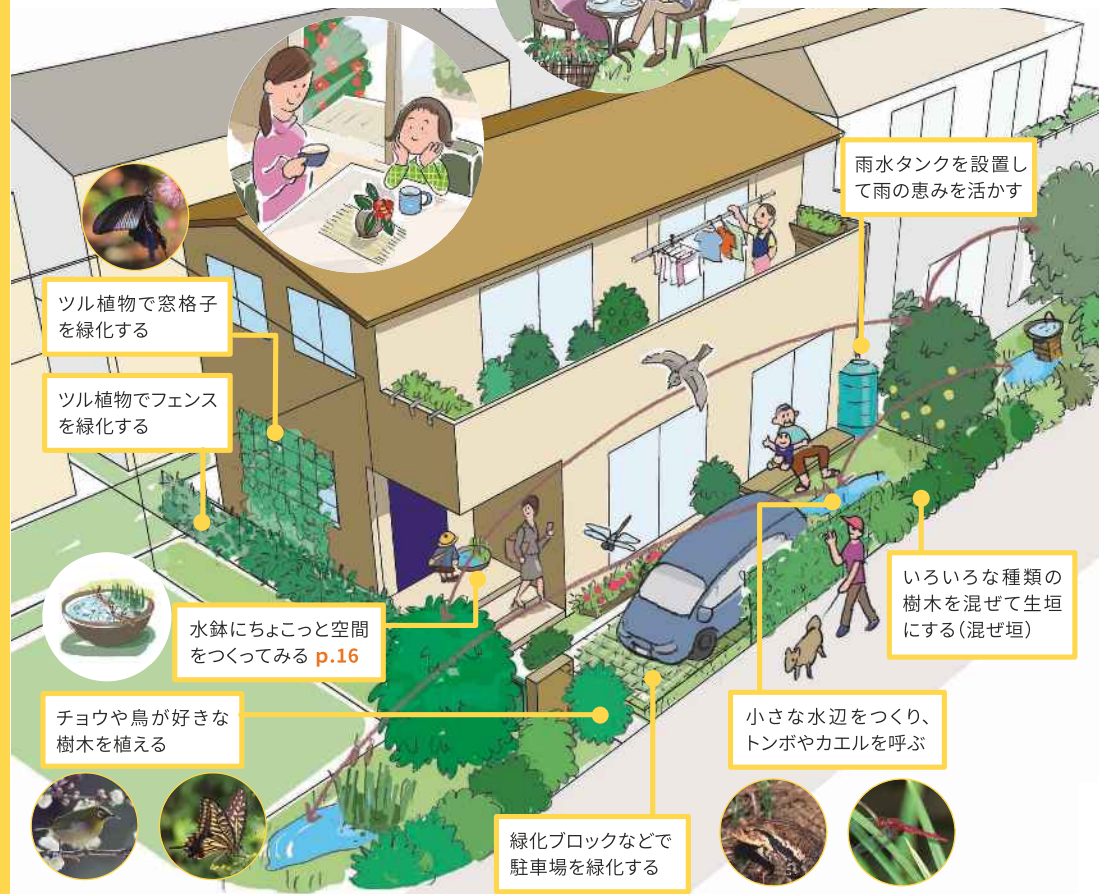
3-1.敷地の大きさや用途で考える

(1)戸建住宅

庭づくりの楽しみとして、さまざまな生きものを呼ぶ工夫をしてみませんか。



戸建住宅の庭につくられた水辺



Book

生きものを楽しむガーデニング

庭やベランダに身近な生きものを呼ぶ工夫

庭に生きものを呼ぶための具体的な方法について、豊富なイラストや写真を用いてわかりやすく紹介しています。

発行：(一財)世田谷トラストまちづくり 編集：せたがや水辺の楽校
電話：03-6379-1620 (2018年5月7日より) 定価：1000円(税込み)

